

栽培実験対象作物別の隔離距離の考え方

現在、独立行政法人で栽培実験を行っている第1種使用規程承認作物のうち、交雑について知見のあるイネ、ダイズ、トウモロコシ、西洋ナタネについて、隔離距離による交雑防止措置を講ずることとし、各作物ごとの距離については別紙の整理としてはどうか。

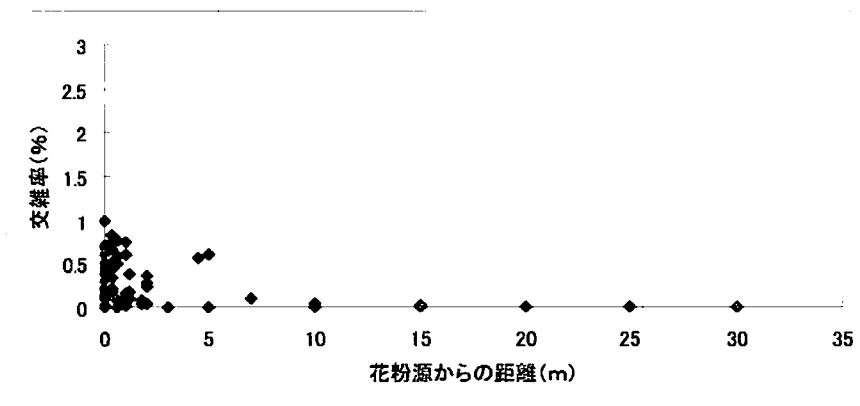
甲第
47
疎甲第
号証
26
号証

1. イネ (*Oryza sativa* L.)

(1) 交雑に関する科学的知見等

①花粉源からの距離と交雑率(%)

花粉源からの距離	4.5m	4.8m	5m	7m	10m	15m	20m	25m	30m	
交雑率(%)	0.56		0, 0.60							(風下、年次変動) 田北(1967)
										西山ら(1973)
				0 ~ 0.04	0 ~ 0.03	0	0	0	0	(風下) 阿部ら(1978)
				<0.1						矢頭ら(2003)
			0.01							Messcguer et al. (2001)



②海外の野外試験実施基準

3.05m

ア 米国 (Biotechnology inspection manual for notification field release (APHIS))

(一般的な野外試験における措置)

隔離距離: 3.05m (10 フィート)

イ 米国 (Biotechnology inspection manual for notification field release (APHIS))

遺伝子組換えイネの限定的ほ場試験 (confined field trial)

(導入遺伝子について、安全であるという基準を満たす場合)

隔離距離: 3.05m (10 フィート)

③その他 (距離以外の交雑防止法)

出穂期を4日ずらせば、交雑率は半減したという知見あり。

(風下30cmで出穂期差0日で0.45%、4日で0.20% (阿部ら (1978))。)

防風ネット

(2) 隔離距離の考え方

以上により、イネについては自家受粉であることから、10m前後でほぼ交雑が生じない状態となり、20mでは交雑が生じない状態と言えるのではないかと考えられる。